

平成 29 年度 事前評価点検表（内部評価）

1 事業概要

事業名	大阪はびきの医療センター新病院整備事業	
担当部署	大阪府立病院機構 大阪はびきの医療センター 経営企画グループ	
事業箇所	大阪府羽曳野市はびきの 3-7-1	
事業目的	<p>現在、大阪はびきの医療センター（以下「当センター」という）は、建設後約 44 年が経過し、老朽化が著しく、早急に抜本的な施設改修が必要な状態である。</p> <p>当センターでは、先進性、専門性を発揮して政策医療を提供するとともに高度専門性を活かして地域の医療ニーズに応えているが、医療機能上の課題として、手術室や外来、放射線検査等のスペースの不足、結核感染症患者と一般患者の動線同一による感染のリスク、全病床への医療ガス設備の未整備、地域包括ケア病棟の施設基準不適合などの課題がある。</p> <p>また、患者の療養環境上の課題として、個室病室の不足や外来待合の狭隘化、診察時のプライバシー確保が不十分、小児の体格に不適応な小児科病棟、狭い病室で重い木製の開き戸などの課題がある。効率的な運営の問題として、開院当時の 1,000 床病棟を運用することによる非効率な維持管理や人員配置などの課題がある。これらはいずれも、現状の施設では限界である。</p> <p>当センターの建て替えを行い、医療機能を強化することによって、先進性・専門性を発揮した政策医療の推進、結核・感染症、呼吸器疾患治療における併発症への対応、高度専門性を活かした地域医療への貢献等、一層積極的に取り組み、地域の基幹病院としての役割を果たしていく。</p>	
事業内容	<p>【計画（主な施設）】 ※今後、大阪府の予算により決定する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 建物構成：本館棟（病棟、外来、管理部門等） ○ 病床数：405 床（うち個室率 30%程度） ○ 延床面積：約 33,461 m²程度 ○ 敷地面積：90,715.81 m² ○ 整備手法：デザインビルド方式 	
事業費	<p>全体事業費：約 156.0 億円 ※平成 29 年 7 月時点。概算費用であり、今後変動する可能性あり</p> <p>（内訳）工事費等 約 146.0 億円</p> <p>医療機器 約 10.0 億円</p>	
	<p>【事業費の積算根拠】</p> <p>近年の同規模の公立病院の実績（平均単価）を踏まえて積算</p>	<p>【工事費等の内訳】</p> <p>工事費 約 130.5 億円</p> <p>設計費等 約 6.5 億円</p> <p>撤去費 約 9.0 億円</p>
事業費の変動要因	関西地区の建設需要の増減に伴い、事業費（建設費）が変動する可能性が考えられる。	
維持管理費	約 18.9 億円／年（長期推計の経費（委託費、賃借料、光熱水費、事務的経費等を含む）より算出）	
関連事業	—	

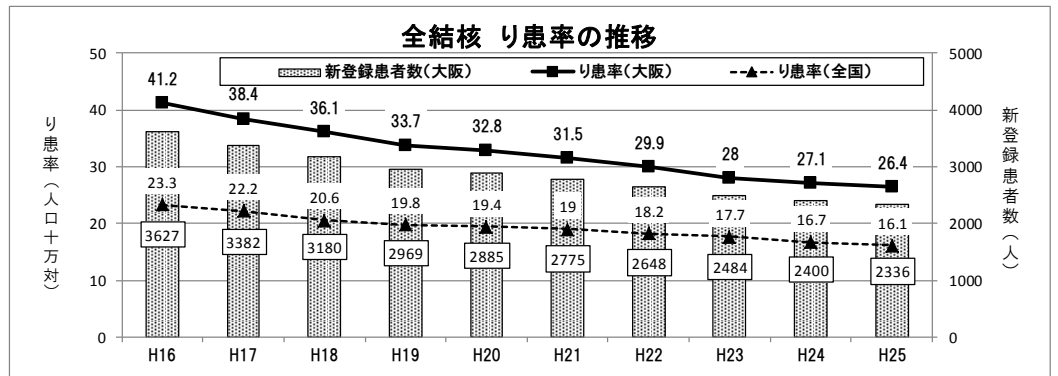
2 事業の必要性等に関する視点

<p>上位計画等における位置付け</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大阪府立病院機構 第3期中期目標（平成29年3月24日通知） 大阪はびきの医療センターについて、現地建替え整備に向けた取組を進めること。（抜粋） ○ 大阪府立病院機構 第3期中期計画（平成29年3月31日認可） イ 大阪はびきの医療センター ・ 現地建替え整備に向けた取組を進める。（抜粋） 																																																																																																																																																																																																										
<p>優先度</p>	<p>以下の理由により、施設整備の優先度は高い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 給排水設備や空調設備など多くの設備が大幅に耐用年数を超えている。 ・ 医療機能の高度化等への対応の遅れ（手術室や外来、放射線検査のスペース不足等） ・ 患者療養環境の不備（結核感染症患者と一般患者の動線同一による感染のリスク、個室不足等） ・ バリアフリー化への対応が不十分。 ・ 上記について、一部改修で対応・改善できるのは非常に限られた項目のみであり、費用対効果が小さい。 																																																																																																																																																																																																										
<p>事業を巡る社会経済情勢等</p>	<p><今後の医療需要見込み></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 当センターの中核を担う呼吸器疾患・アレルギー疾患及び感染症等、多くの傷病が、現在から2040年までの間に増加する。当センターとしても、大阪府の政策医療として長年行ってきた難治性呼吸器疾患、アレルギー疾患、感染症の診療・ケアについて、今後も一層先進性・専門性を高め、患者の受け入れに努める。 <p>【診療圏における傷病別の将来の医療需要（入院）】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">傷病大分類</th> <th rowspan="2">2010年患者数 (人/日)</th> <th rowspan="2">2015年患者数 (人/日)</th> <th rowspan="2">2025年患者数 (人/日)</th> <th colspan="2">2010年⇒2025年</th> <th rowspan="2">2040年患者数 (人/日)</th> <th colspan="2">2010年⇒2040年</th> </tr> <tr> <th>増減数</th> <th>率</th> <th>増減数</th> <th>率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>感染症及び寄生虫症</td> <td>630</td> <td>697</td> <td>791</td> <td>(161)</td> <td>(25.6%)</td> <td>748</td> <td>(118)</td> <td>(18.7%)</td> </tr> <tr> <td>新生物</td> <td>3,680</td> <td>4,014</td> <td>4,282</td> <td>(602)</td> <td>(16.4%)</td> <td>4,154</td> <td>(474)</td> <td>(12.9%)</td> </tr> <tr> <td>血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害</td> <td>154</td> <td>177</td> <td>208</td> <td>(54)</td> <td>(35.1%)</td> <td>196</td> <td>(42)</td> <td>(27.3%)</td> </tr> <tr> <td>内分泌、栄養及び代謝疾患</td> <td>976</td> <td>1,104</td> <td>1,279</td> <td>(303)</td> <td>(31.0%)</td> <td>1,230</td> <td>(254)</td> <td>(26.0%)</td> </tr> <tr> <td>精神及び行動の障害</td> <td>5,494</td> <td>5,717</td> <td>5,918</td> <td>(424)</td> <td>(7.7%)</td> <td>5,490</td> <td>(▲4)</td> <td>(▲0.1%)</td> </tr> <tr> <td>神経系の疾患</td> <td>2,191</td> <td>2,488</td> <td>2,965</td> <td>(774)</td> <td>(35.3%)</td> <td>2,814</td> <td>(623)</td> <td>(28.4%)</td> </tr> <tr> <td>眼及び付属器の疾患</td> <td>325</td> <td>361</td> <td>395</td> <td>(70)</td> <td>(21.5%)</td> <td>388</td> <td>(63)</td> <td>(19.4%)</td> </tr> <tr> <td>耳及び乳様突起の疾患</td> <td>54</td> <td>57</td> <td>59</td> <td>(5)</td> <td>(9.3%)</td> <td>56</td> <td>(2)</td> <td>(3.7%)</td> </tr> <tr> <td>循環器系の疾患</td> <td>5,489</td> <td>6,368</td> <td>7,723</td> <td>(2,234)</td> <td>(40.7%)</td> <td>7,435</td> <td>(1,946)</td> <td>(35.5%)</td> </tr> <tr> <td>呼吸器系の疾患</td> <td>2,014</td> <td>2,373</td> <td>2,950</td> <td>(936)</td> <td>(46.5%)</td> <td>2,788</td> <td>(774)</td> <td>(38.4%)</td> </tr> <tr> <td>消化器系の疾患</td> <td>1,654</td> <td>1,842</td> <td>2,066</td> <td>(412)</td> <td>(24.9%)</td> <td>1,968</td> <td>(314)</td> <td>(19.0%)</td> </tr> <tr> <td>皮膚及び皮下組織の疾患</td> <td>268</td> <td>300</td> <td>349</td> <td>(81)</td> <td>(30.2%)</td> <td>333</td> <td>(65)</td> <td>(24.3%)</td> </tr> <tr> <td>筋骨格系及び結合組織の疾患</td> <td>1,788</td> <td>2,027</td> <td>2,390</td> <td>(602)</td> <td>(33.7%)</td> <td>2,301</td> <td>(513)</td> <td>(28.7%)</td> </tr> <tr> <td>腎尿路生殖器系の疾患</td> <td>1,091</td> <td>1,242</td> <td>1,445</td> <td>(354)</td> <td>(32.4%)</td> <td>1,381</td> <td>(290)</td> <td>(26.6%)</td> </tr> <tr> <td>妊娠、分娩及び産後</td> <td>462</td> <td>415</td> <td>354</td> <td>(▲108)</td> <td>(▲23.4%)</td> <td>291</td> <td>(▲171)</td> <td>(▲37.0%)</td> </tr> <tr> <td>周産期に発生した病態</td> <td>179</td> <td>168</td> <td>128</td> <td>(▲51)</td> <td>(▲28.5%)</td> <td>110</td> <td>(▲69)</td> <td>(▲38.5%)</td> </tr> <tr> <td>先天奇形、変形及び染色体異常</td> <td>120</td> <td>115</td> <td>97</td> <td>(▲23)</td> <td>(▲19.2%)</td> <td>84</td> <td>(▲36)</td> <td>(▲30.0%)</td> </tr> <tr> <td>症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの</td> <td>427</td> <td>492</td> <td>606</td> <td>(179)</td> <td>(41.9%)</td> <td>574</td> <td>(147)</td> <td>(34.4%)</td> </tr> <tr> <td>損傷、中毒及びその他の外因の影響</td> <td>3,167</td> <td>3,614</td> <td>4,349</td> <td>(1,182)</td> <td>(37.3%)</td> <td>4,124</td> <td>(957)</td> <td>(30.2%)</td> </tr> <tr> <td>健康状態に影響を及ぼす要因および保健サービスの利用</td> <td>346</td> <td>365</td> <td>388</td> <td>(42)</td> <td>(12.1%)</td> <td>362</td> <td>(16)</td> <td>(4.6%)</td> </tr> <tr> <td>総計</td> <td>30,509</td> <td>33,936</td> <td>38,739</td> <td>(8,230)</td> <td>(27.0%)</td> <td>36,824</td> <td>(6,315)</td> <td>(20.7%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注1) 網掛けは当センターでの取り扱い患者数が多い傷病 (注2) 上記患者数は、傷病中分類での入院患者数を推計し、大分類に集計したものである。</p>	傷病大分類	2010年患者数 (人/日)	2015年患者数 (人/日)	2025年患者数 (人/日)	2010年⇒2025年		2040年患者数 (人/日)	2010年⇒2040年		増減数	率	増減数	率	感染症及び寄生虫症	630	697	791	(161)	(25.6%)	748	(118)	(18.7%)	新生物	3,680	4,014	4,282	(602)	(16.4%)	4,154	(474)	(12.9%)	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	154	177	208	(54)	(35.1%)	196	(42)	(27.3%)	内分泌、栄養及び代謝疾患	976	1,104	1,279	(303)	(31.0%)	1,230	(254)	(26.0%)	精神及び行動の障害	5,494	5,717	5,918	(424)	(7.7%)	5,490	(▲4)	(▲0.1%)	神経系の疾患	2,191	2,488	2,965	(774)	(35.3%)	2,814	(623)	(28.4%)	眼及び付属器の疾患	325	361	395	(70)	(21.5%)	388	(63)	(19.4%)	耳及び乳様突起の疾患	54	57	59	(5)	(9.3%)	56	(2)	(3.7%)	循環器系の疾患	5,489	6,368	7,723	(2,234)	(40.7%)	7,435	(1,946)	(35.5%)	呼吸器系の疾患	2,014	2,373	2,950	(936)	(46.5%)	2,788	(774)	(38.4%)	消化器系の疾患	1,654	1,842	2,066	(412)	(24.9%)	1,968	(314)	(19.0%)	皮膚及び皮下組織の疾患	268	300	349	(81)	(30.2%)	333	(65)	(24.3%)	筋骨格系及び結合組織の疾患	1,788	2,027	2,390	(602)	(33.7%)	2,301	(513)	(28.7%)	腎尿路生殖器系の疾患	1,091	1,242	1,445	(354)	(32.4%)	1,381	(290)	(26.6%)	妊娠、分娩及び産後	462	415	354	(▲108)	(▲23.4%)	291	(▲171)	(▲37.0%)	周産期に発生した病態	179	168	128	(▲51)	(▲28.5%)	110	(▲69)	(▲38.5%)	先天奇形、変形及び染色体異常	120	115	97	(▲23)	(▲19.2%)	84	(▲36)	(▲30.0%)	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	427	492	606	(179)	(41.9%)	574	(147)	(34.4%)	損傷、中毒及びその他の外因の影響	3,167	3,614	4,349	(1,182)	(37.3%)	4,124	(957)	(30.2%)	健康状態に影響を及ぼす要因および保健サービスの利用	346	365	388	(42)	(12.1%)	362	(16)	(4.6%)	総計	30,509	33,936	38,739	(8,230)	(27.0%)	36,824	(6,315)	(20.7%)
傷病大分類	2010年患者数 (人/日)					2015年患者数 (人/日)	2025年患者数 (人/日)		2010年⇒2025年		2040年患者数 (人/日)	2010年⇒2040年																																																																																																																																																																																															
		増減数	率	増減数	率																																																																																																																																																																																																						
感染症及び寄生虫症	630	697	791	(161)	(25.6%)	748	(118)	(18.7%)																																																																																																																																																																																																			
新生物	3,680	4,014	4,282	(602)	(16.4%)	4,154	(474)	(12.9%)																																																																																																																																																																																																			
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	154	177	208	(54)	(35.1%)	196	(42)	(27.3%)																																																																																																																																																																																																			
内分泌、栄養及び代謝疾患	976	1,104	1,279	(303)	(31.0%)	1,230	(254)	(26.0%)																																																																																																																																																																																																			
精神及び行動の障害	5,494	5,717	5,918	(424)	(7.7%)	5,490	(▲4)	(▲0.1%)																																																																																																																																																																																																			
神経系の疾患	2,191	2,488	2,965	(774)	(35.3%)	2,814	(623)	(28.4%)																																																																																																																																																																																																			
眼及び付属器の疾患	325	361	395	(70)	(21.5%)	388	(63)	(19.4%)																																																																																																																																																																																																			
耳及び乳様突起の疾患	54	57	59	(5)	(9.3%)	56	(2)	(3.7%)																																																																																																																																																																																																			
循環器系の疾患	5,489	6,368	7,723	(2,234)	(40.7%)	7,435	(1,946)	(35.5%)																																																																																																																																																																																																			
呼吸器系の疾患	2,014	2,373	2,950	(936)	(46.5%)	2,788	(774)	(38.4%)																																																																																																																																																																																																			
消化器系の疾患	1,654	1,842	2,066	(412)	(24.9%)	1,968	(314)	(19.0%)																																																																																																																																																																																																			
皮膚及び皮下組織の疾患	268	300	349	(81)	(30.2%)	333	(65)	(24.3%)																																																																																																																																																																																																			
筋骨格系及び結合組織の疾患	1,788	2,027	2,390	(602)	(33.7%)	2,301	(513)	(28.7%)																																																																																																																																																																																																			
腎尿路生殖器系の疾患	1,091	1,242	1,445	(354)	(32.4%)	1,381	(290)	(26.6%)																																																																																																																																																																																																			
妊娠、分娩及び産後	462	415	354	(▲108)	(▲23.4%)	291	(▲171)	(▲37.0%)																																																																																																																																																																																																			
周産期に発生した病態	179	168	128	(▲51)	(▲28.5%)	110	(▲69)	(▲38.5%)																																																																																																																																																																																																			
先天奇形、変形及び染色体異常	120	115	97	(▲23)	(▲19.2%)	84	(▲36)	(▲30.0%)																																																																																																																																																																																																			
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	427	492	606	(179)	(41.9%)	574	(147)	(34.4%)																																																																																																																																																																																																			
損傷、中毒及びその他の外因の影響	3,167	3,614	4,349	(1,182)	(37.3%)	4,124	(957)	(30.2%)																																																																																																																																																																																																			
健康状態に影響を及ぼす要因および保健サービスの利用	346	365	388	(42)	(12.1%)	362	(16)	(4.6%)																																																																																																																																																																																																			
総計	30,509	33,936	38,739	(8,230)	(27.0%)	36,824	(6,315)	(20.7%)																																																																																																																																																																																																			

事業を巡る
社会経済情勢等

- 結核患者については、最近のり患率の低下傾向（マイナス3%）を踏まえ、今後も患者数は減少するものとして推計している。また、府域の医療機関が結核病床を削減しつつある中、当センターとしては「結核治療の最後の砦」として、併発症への対応力を強化し、今後もこれまで培った高度な専門性を発揮し、府域における結核医療水準の向上に努めていく。

【全結核り患率の推移及び結核患者数の推計結果】



(出典：平成27年2月「大阪府結核対策審議会」資料より)

	H17	H20	H23	H26	H37(2025年)	H52(2040年)
推計人口(千人)	8,817	8,806	8,861	8,836	8,410	7,454
入院受療率(人)	8	5	5	7	5.0	3.2
入院患者数(人)	705	440	443	619	421	239
入院受療率：厚生労働省「患者調査」				H26比	-198	-380
					-32.0%	-61.4%

地元の協力体制等

—

事業の投資効果
<費用便益分析>
または
<代替指標>

<費用便益分析>
本事業については、費用便益の測定手法が確立されていない。

事業効果の
定性的分析
(安心・安全、活力、
快適性等の有効性)

- 【効果項目】
- <安心・安全>
- 免震構造の採用によって、災害時でも医療機能が継続できる施設とする。
 - 災害時の負傷者の収容・トリアージ等のスペースの設置、エントランス・講堂等への医療ガス配管やネットワーク環境の整備を行い、災害発生時の患者受け入れが可能な施設とする。
- <活力>
- 職員が働きやすく、コミュニケーションの活性化を促進できる施設・設備を整備することで、職場環境の改善、職員の活力向上が実現される。
 - 当センターでは、行政や学校関係者を対象に、アレルギー・感染症対策などの教育啓発活動に力を入れており、新病院でも教育・研修等、多目的に利用できる会議室及びカンファレンス室を整備することで、より一層の活動の充実が期待できる。

<p>事業効果の定性的分析 (安心・安全、活力、快適性等の有効性)</p>	<p><快適性></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 施設の狭隘化を解消すること、小児・高齢者・障がい者等、様々な患者が利用しやすいよう、施設・設備のデザイン等に配慮することで、療養環境が改善される。 ○ 近接性を考慮した部門配置、スタッフと患者の動線分離等によって、患者・職員の双方にとって安全で便利な移動が実現される。 <p>【受益者】 患者、地域住民、周辺医療機関等、職員</p>
---	---

3 事業の進捗の見込みの視点 ※今後、大阪府の予算により決定する

<p>事業段階ごとの進捗予定と効果</p>	<p>平成 29 年度：基本計画の策定 平成 30 年度：基本設計 平成 31 年度：実施設計 平成 32～33 年度：建設工事</p>
<p>完成予定年度</p>	<p>供用開始 平成 34 年度中</p>

4 コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

<p>代替手法との比較検討</p>	<p><現施設の改修について></p> <p>建て替えではなく、現施設の改修により対応することについては、以下のような課題があげられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 現施設の設備改修として、各病棟の給排水設備をフロア毎に順次改修していくという方法が考えうるが、1Fの分娩室や2FのIRCU（呼吸器集中治療室）は、他に仮設の代替施設を整備するか、その間、医療提供の休止が必要となる。また、横方向（枝管）の給排水管は改修できても、上下方向の給排水管（縦管）までは改修できない等の限界がある。 ○ 上記の可能な範囲で改修を行う場合でも、今後10年間で少なくとも35億円以上の改修費が見込まれることに加え、その工事の際は、上下階の病棟を空床にする必要があり、工事期間中の患者コントロールにより大幅な減収が見込まれ、収益面でも大きなマイナス影響を受けることとなる。 ○ さらに、そうした改修で対応・改善できるのは、現在当センターが抱える課題のうち、非常に限られた項目に過ぎず、医療機能の高度化やバリアフリー化への対応、療養環境の不備等には、ほとんど改善効果が得られない。 <p>以上のように、現施設を改修するためには多額の費用が必要となるうえ、一部病棟の閉鎖が伴うなど当センターの医療提供に重大な影響を及ぼすとともに、老朽化対策としての一時的な延命策に過ぎず、病床面積や廊下幅など建物の構造上変更ができない点も多く、患者療養環境等の抜本的改善には至らない。</p> <p>また、当センターの抱える現状の課題解決や将来の医療需要を踏まえた今後の医療機能を提供していくためには、現地において建て替えが必要であると判断した。</p>
-------------------	--

5 特記事項

自然環境等への影響とその対策	基本計画にて、自然エネルギーの利用等、環境負荷に配慮した施設・設備とする旨、方針を定めている。 また、事業者の募集・選定にあたって、これらに関する提案を求める。
その他特記事項	—

6 評価結果

評価結果	<p>○事業実施</p> <p><判断の理由></p> <ul style="list-style-type: none">・施設、設備の老朽化と、それに伴う過大な維持管理コストにより早急な対応が必要。・手術室や外来、放射線検査室等の狭隘化、結核感染症患者と一般患者の動線同一による感染リスク等の課題改善による医療機能高度化への対応が必要。・個室の不足や、外来診察時のプライバシー確保、小児の体格に不適合な小児科病棟など、患者療養環境への対応が必要。 <p>以上の理由から、事業を実施する必要があると判断する。</p>
------	---